

はねっと ①

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



協働による活動事例を紹介「ちまたのコラボ」

ホタルの光を守るバトン、次世代へつなぐ



仙台旭ヶ丘ホタルとメダカの会

せきばくにお
事務局 関場 國夫 さん



旭ヶ丘ホタルを育む会

さとうひろし
代表 佐藤 宏 さん



教諭
おじまのりゆき
小島 紀幸さん

東北学院中学校・高等学校
科学部生物班

あべ しおん きむら げんき たかはし ゆうや いわたり しょうたろう
上段左から、阿部 史音さん、木村 元希さん、高橋 佑弥さん、岩田 遼汰郎さん
おだぎり ふみか いわぶら さき さきはら みさき のむら うた
下段左から、小田桐 史佳さん、岩淵 紗希さん、笹原 美咲さん、野村 奏多さん

2022年7月から、「ホタルの光あふれる仙台市へ LIFE LIGHT LOVE」と題し、東北学院中学校・高等学校科学部生物班(以下、生物班)の高校生18人は、台原森林公園でゲンジボタルの保護活動に取り組んでいます。高校生たちに力を貸すのは、20年以上にわたり、公園で保護活動に取り組んできた、仙台旭ヶ丘ホタルとメダカの会(以下、ホタルとメダカの会)と次代の活動の担い手として2018年に立ち上がった旭ヶ丘ホタルを育む会(以下、育む会)です。世代を超えて取り組む環境活動をご紹介します。

都市化で姿を消したホタル

現旭ヶ丘駅周辺一帯には、1955年頃まで水田が広がり、夏になると多くのホタルが飛び交っていました。しかし、台原森林公園建設や団地整備などの大規模開発により、ホタルやメダカは姿を消しました。ホタルを呼び戻そうと、住民有志で1999年に立ち上がったのがホタルとメダカの会です。事務局の関場國夫さんは、「豊かな自然が失われたのが残念だった。ホタルの光をまた見たいと思った」と振り返ります。同年、ホタルとメダカの会は、旧金成町(現栗原市)からゲンジボタルの成虫の寄贈を受け、台原森林公園「生物観察ゾーン」の小川に放ちました。翌年にはカワニナも贈られ放流。カワニナとは、小指の先ほどの巻貝で、ゲンジボタルの幼虫の唯一のエサです。1匹のゲンジボタルが成虫に育つまでに20~40個食べるともいわれています。ゲンジボタルの繁殖を妨げる主な原因が、エサ不足による餓死だったことから、育む会はホタルとメダカの会と共にカワニナの増殖に力を入れています。カワニナがよく食いつくキャベツの外葉を与えています。今

では、ゲンジボタルとカワニナが公園内の小川で命を繋ぐようになり、ゲンジボタルが舞う6月を多くの人が楽しみにしています。

手を取りあってホタルを守る

一方、生物班は、各々の興味・関心を大切にトンボやナズナの研究にも取り組んできました。ゲンジボタル研究もその一環です。研究のきっかけは生物班顧問の小島紀幸先生が、以前からホタルとメダカの会・育む会の活動に関心を寄せていたこと。「地域でより充実した研究活動をしたい」と考え、団体の活動拠点である旭ヶ丘市民センターに仲介を依頼し、ホタルとメダカの会、育む会、生物班の3者協働による活動が始まりました。3者の共通の願いは「ホタルの光を次の世代へ残したい」です。そのために、生物班が力を入れるのは、カワニナの研究です。水温や水中の水素イオン濃度を記録し、カワニナにとって住みよい環境条件を調べています。生物班高校1年生の笹原美咲さんは、「団体の皆さんにホタルやカワニナの基礎から教えてもらった」と話します。また、3者は2022年7月に力を合わせ、ゲンジボタルとカワニナの生息域を広げるため、公園に全長26mの小川を新たに掘りました。本来、ゲンジボタルは水田数枚分の広いエリアで育ちますが、比較して「生物観察ゾーン」は手狭です。関場さんは「必要と分かっているにもかかわらずできなかった。本当に助かった」と話します。育む会メンバーは、「保護のノウハウを知る関場さんとの現場活動を糧にして、高校生がこの取り組みを引き継いでいってくれたら」と未来に思いを馳せます。



ホタルの光、未来へと
生物班は、自分たちが今学んでいることを今度は地元の小学生に伝えようとしています。子ども向けワークショップを構想中の高校3年生阿部史音さんは、「子どもの頃、

名取市開上で見た綺麗なホタルの光が忘れられない。この公園で子どもたちにも見せたい」と意気込んでいます。ホタルが舞う仙台を未来に繋ぎます。

[環境社会実験] 未来プロジェクトin仙台

フィール
本協働は、「杜の都の市民環境教育・学習推進会議」(愛称:FEEL
仙台) 助成事業「未来プロジェクトin仙台」を活用しています。FEEL
Sendaiは、環境に配慮する人を育てるために、市民・NPO・学校・事業者・行政等の協働により、総合的な環境教育・学習の推進に取り組んでいます。

● 東北学院中学校・
高等学校科学部
生物班



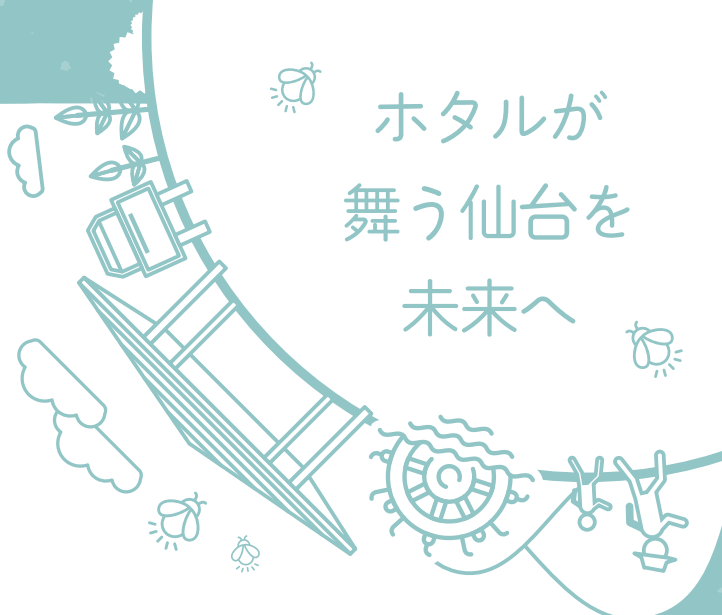
◀ Instagramで
活動の様子を
随時配信中

● 仙台旭ヶ丘ホタルとメダカの会(事務局)

TEL 022-275-3955

● 旭ヶ丘ホタルを育む会

TEL 022-271-4729



ホタルが
舞う仙台を
未来へ



活動を始める一歩を応援「コトハジメ」

ギターの弦を回収して資源に！音楽×社会貢献＝ミュージックドネーション

ギターやベースの弦には、ニッケル、ステンレス、スズ、銅、リンなど貴重な金属が含まれています。使用済みの弦を回収して再利用できれば、資源を有効活用できます。回収された弦は換金され、途上国の子ども支援や植林活動支援に生かされます。環境に貢献できる方法は意外なところにもあります。身の回りのことに関心を持つことから始めてみませんか。

- ギターやベースを弾く人は、使用済みの弦をお店やスタジオ、ライブハウスに設置された回収箱に入れてみよう。
- 身近にギターやベースを弾く人がいたら、ミュージックドネーションについて伝えてみよう。

NPO法人環境会議所東北内 ミュージックドネーション係

TEL 022-218-0761(平日10:00~17:00) Mail kkt.music.d@gmail.com

回収拠点
一覧▶



▲カホンを利用した回収箱

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。
「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 1月11日(水)、25日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



「ばれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。
ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者: 特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2023年1月4日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]

@SCSC4CA

[Youtube]

サポセンちゃんねる

